



先生の熱量に圧倒！ ～本課主催研修会～

11月8日(火)本課主催「地域と学校の連携・協働研修会」を霞城公民館講堂で開催しました。とちぎ市民協働研究会代表理事の廣瀬隆人先生と第一小学校地協推進員の堀川敬子氏をお迎えしました。出席者は学校運営協議会委員、地協推進員、教育委員、そして山形大学地域教育文化学部の4年生、あわせて46名でした。



グループワークの中で、地協推進員の活動紹介を行いました。廣瀬先生によるアイスブレイクによって和やかな雰囲気となり、出席者の笑顔やうなずきも多くなりました。堀川さんの実践発表に、話しぶりの素晴らしさも相まって、多岐にわたる

アイディア豊富な実践に引き込まれていきました。その感想について、廣瀬先生はマイクを学生に向けました。すると、学生からは実践のすばらしさと共に教育の未来が拓けていくような感想が出され、出席者全員が勇気をもりました。次に廣瀬先生の指導・助言となりました。時間が短くなったにもかかわらず、それを自在に調整しながら、圧倒的な分量のスライドで全ての痒い所に手が届く内容で話されました。出席者の満足げな表情が印象的でした。



事後アンケートにはこんな記載がありました。「事例提供堀川氏の話、具体的な話が色々あって分かりやすくコミュニティ・スクールの理解を深めることができました。廣瀬隆人氏の今までのことを大事にしつつ展開していくことが大事であることがよく分かりました。有難うございました。」「廣瀬先生の熱量に圧倒されました。」このように、聴いている人が元気をいただくような内容と迫力でした。

印象的な話として「日光市は、学校運営協議会で必ず地域学校協働活動をテーマに話し合うことにしている。また、学校運営協議会委員と一般教職員とのコミュニケーションをはかるするために、年4回のうち2回を夏休み中に行うことを予定している。」がありました。さらに、廣瀬先生語録をまとめてみました。「地域の良質な大人は公民館にいる」「すでに学校は地域との連携だらけ」「新しいことをはじめめるのではなく、新しい気持ちをはじめることだ」「新たなことをするのではなく、地協活動探しから始める」「地協活動は1+1=2にするのではなく、太った **1** にする」「花笠を踊ったことのない山形の子どもを育てていいですか？」など数限りありませんでした。

同じ土俵で話し合う ～二小への出前講座と学校運営協議会～



11月15日(火)、二小からの要請を受けた出前講座を行いました。二小は令和3年7月にコミュニティ・スクールとなり、すぐに第1回学校運営協議会が開かれ、本課が委員の方々にプレゼン説明の予定となっていました。コロナの拡大に伴って出席できなくなりました。そこで、全員が同じ話を聞き、同じ土俵で話し合っていきたいという校長先生や委員の方々の要請によって今回の出前講座が実現したものです。

出前講座の部分には山形大学の4年生2名の参加もありました。各委員からの現在の疑問を記入していただき、その後説明のプレゼンを行いました。解決しない疑問について挙げていただき、回答していきました。最終的に紙面にて全ての疑問への回答を行いましたが、例えばこうした疑問です。「コミュニティ・スクールでの具体的な活動内容がわからない。」「他のコミュニティ・スクールではどのような話し合いや活動を行っているのか。」などです。

学生が退席した後、学校運営協議会が開かれました。二小の工夫点は、委員が参加した研修会の報告をしているところです。話し合いが進むにつれて、コロナ禍での様々な地域学校協働活動が途切れている苦悩の中で、次第に光がさしていくようでした。ある委員からの「これまでやってきた安全活動や花笠、資源回収などから核を設けて始めてみてはどうですか。」という意見に賛同が集まり、「安全活動から始めてみますか。」との言葉に、今後具現化していく期待が高まりました。

教員スタート直前 ～地域学校協働インターンシップ～

前の二つの記事に山形大学4年生が出席していますが、次のようなことがスタートしたからです。山形大学地域教育文化学部の児童教育コース4年次後期10月から2月にかけて、「地域学校協働インターンシップ」という実習形態の科目ができたのです。つまり、いよいよ教員としてスタートする直前に、地域学校協働活動を身につけておくということなのです。そのために、各小中学校の地域学校協働活動等(学習支援や放課後子ども教室の他、放課後児童クラブ、フリースクールなど)にボランティアスタッフとして参加したり、地協推進員へのインタビューを行ったりするとのこと。また、研修会や出前講座で学んだりすることで、学校と地域の協働体制の実態についての理解を深めた教員となることが期待されています。地域と学校をどうつなげていくかを知っている新規採用の教員は、学校現場としては頼もしい限りかもしれません。同学部教授安藤耕己氏、吉田誠氏が担当されています。